

上宮寺通信

第四十六号

これからがこれまでを決める

二ヶ月に一度ほど、宗教教誨のため受刑者に会う機会があります。そのときに人生を悲観する言葉を発する人もいます。私自身もかける言葉が見つからないのですが、以前、こんな言葉に出会いました。

「これまでがこれからを決めるのではない。これからがこれまでを決めるのだ」。

一般的には、「これまでがこれからを決める」と思われています。

一生懸命に勉強すれば、いい学校に行くことができ、いい仕事に就くことができ、いい暮らしができる。真面目に生きていくことが大事なのだ。反対に

罪を犯せば、それ相応の報いを受ける。

仏教でも因果の道理を説きます。すべての結果には原因となるものがある。善い結果を得ようとするれば善い行いをしなければいけない。悪いことをすれば悪い結果がある。善因善果、悪因悪果と説かれています。

出所しても社会になかなか受け入れられないという現実もあり、再び罪を犯してしまうという例は多々あります。だから、罪を犯してしまった自分はもうダメだと、これからのことを悲観してしまうのです。

実は仏教で説く因果の道理は「因↓果」だけではないのです。「果↓因」という見方も示して

います。そこにこそ仏教という「救い」ということが成り立つといえるのです。

つまり、「これから」の人生を前向きに生きることができ（善果）ということは、「これまで」の生き方が善であった（善因）。反対に「これから」の人生を愚痴ばかりで生きざるをえない（悪果）ということは、「これまで」の生き方が悪であった（悪因）という、果から因を見た生き方です。

たとえ罪を犯したとしても、更生しこれからの人生を真っ当に前向きに生きていくことができれば、犯罪という事実は変わらないけれども、その人にとっては罪を犯した過去もまた善因となるのです。

仏教が問うてくるのは今、そしてこれからの生き方なので

人生というのは、どういう道を歩もうとも無駄ではなかった。そういただけるとき、これまでの人生が善因となる。だから「これからがこれまでを決める」といえるのです。

罪を犯すということは許されることではありませんが、一人の人間として向き合ったとき、そのように人生を受け取ってくれることを願わずにはおられません。



仏様にお供えするご飯のこ
とをお仏飯といえます。「おぶ
く」とか「おぶくさん」と言わ
れる人もいます。

朝にお供えして昼に下げる
というのが正しいのですが、最
近は朝ごはんにはパンという方
も増えて、「お米を炊かないの
でどうしよう?」という声もよ
く聞きます。結論から言います
と、炊かれたときにお供えして
ください(夜でもいいです)。
あくまでも食べものに対する
感謝の気持ちです。

お仏飯の形は東西本願寺で
違うのですが、東本願寺は蓮の
実の形となります。



◆話題あれこれ

○「仏事のギモン?」は、紙
面の都合で不定期ですが、毎
回どういうテーマにしようか
と悩みます。法事や月参りに
うかがったときに尋ねられる
ことがヒントになります。わ
からないこと、疑問に思った
ことがありますたら、なんで
も結構ですのでご相談ご質問
ください。



○上宮寺八事墓地にお墓がある
方には今年度の管理費納入のお
願いを近々出させていただきま
す。またお墓でのお盆経は8月
7日(日)早朝になりますので、
よろしくお願いいたします。

○新型コロナウイルスの感染者数も徐々
にはありますが減少傾向にあ
ります。ただ終息したわけでは
ありませんので、予防だけはし
っかりいきたいと思えます。お
寺にお参りの時もお協力を願
いいたします。

○まもなく梅雨入りしそそう
です。ここ最近、大雨による被害
が必ずどこかで発生していま
す。うちは大丈夫!とは思わず
備えだけはしておきたいと思
います。

【雑感】

先日、東本願寺札幌別院で行
われた教誨師会の研修会に参加
しました。明治期の北海道開拓
に受刑者の力が少なからずあつ
たことを学び、個人ではなかな
か行けない資料館も行くことが
でき有意義な研修でした。帰
りの飛行機まで少し時間があつた
ので、札幌の街を散策。北海道
神宮、時計台、北海道庁などを
急ぎ足で周ってきました。汗ば
む陽気でしたが、カラッとして
いて気持ちよかった北海道。も
ちろんラーメンやスープカレー
などグルメも堪能。おいしかつ
たです。
(住職)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547